

日刊 八廿 磐城時報

編輯部 磐城石城郡平町四丁目 印刷部 磐城石城郡平町四丁目

今や全く凋落した 日本坑夫組合の勢力

入山等は一人の會員もない 會社側の彈壓も切崩し奏効

労働條件の改善を叫ぶ。常磐のを得るに適當なる播種後の注意法。効果も極めて顯著なものは五月十二日から十九日迄東京

片倉組總會を控へ 製糸場委員上京

中町附近に法人組織の製糸工場に際し昨春各炭礦の争議に相を設けずべく片倉組と交渉中で當受難苦の体験を得て来た石城

播種について

郡農會の希望 石城郡地方の水稲苗代播種は本月二十三日から一齊に着手され

メーデー示威行列

いよいよ一兩日に迫つたメーデー 經て好間村に至り古河炭礦を示

修學旅行

磐城高等女學校四年生百五十名 五月十二日から十九日迄東京

協議會終る

縣中等學校圖書擔當教員の協議會は既報の如く二十七日、二十八日の兩日平町警城中學校に

成績良好

平警察署管内自動車車体検査は二十五日から二十八日迄平町で

内郷の鼠賊

信夫郡中野村生れ當時石城郡内郷村大字宮居住木村利八(四二)

胎毒の話

醫學士 五十嵐 雄二 述 春になるとよく小供に瘡が出

新田坂の崖下に 鮮血に塗れた死體

豫審判事、検事、刑事總掛りで 犯人搜索に着手

湯本町から植田町に通ずる國道新田坂は附近に人家が全くない

後坑夫の男が鮮血に塗れて倒れてゐる附近には格闘した形

人が發見駐在所に届け出たのし同所に運んで来て死體を遺棄

で植田署から係官出張視したしたものでし男の住所氏名不

處頭部に毆られた傷跡あり他殺 詳であるが、風体から推して金

の疑ひ充分なので同日午後九時持ちらしい点がないから痴情關

中検査局から窪田田検事、片岡書 係で殺害したものであらうと察

記、平支部遠藤藤審判事、島山 藤沼醫師出張解剖して死因を確

長以下、平警察署から鈴木司法 主任、青田刑事部長以下刑事多

数出張犯人搜索の手中である 他所で殺して

遺棄したものの 死體は解剖 古和口虎雄氏編輯にかゝる月刊

雜誌「常磐大衆」創刊號は二十八日發賣されたが内容は星一、白

驚いた!!!

おぶつた兒が 加納活版所の印刷物

川部村字瀬戸勿來炭礦坑夫柏原 玉一内縁の妻木村きよの私生兒

しん(三つ)は去る二十五日午前 八時半頃子守の赤羽のお(一〇)

と戶外で火を焚き遊んでゐる中 しんの着てゐた衣類に火が燃

しんの着てゐた衣類に火が燃 した。しんは全身に大火傷を負

しんの着てゐた衣類に火が燃 した。しんは全身に大火傷を負

しんの着てゐた衣類に火が燃 した。しんは全身に大火傷を負

しんの着てゐた衣類に火が燃 した。しんは全身に大火傷を負

しんの着てゐた衣類に火が燃 した。しんは全身に大火傷を負

しんの着てゐた衣類に火が燃 した。しんは全身に大火傷を負

しんの着てゐた衣類に火が燃 した。しんは全身に大火傷を負

しんの着てゐた衣類に火が燃 した。しんは全身に大火傷を負

しんの着てゐた衣類に火が燃 した。しんは全身に大火傷を負

大和田醫院
耳鼻咽喉科
電話一七〇番

藤沼醫院
淋病、外科、微毒科
電話五〇七番

着ナフトル
尺モスリン
模倣銘仙
平田屋
電話五七

簡易金の融
堅實と誠意
大免大許
磐城無盡商會
電話一〇九六番

最新滋強
回春劑
適應症：腦神經衰弱、ヒステリー、生殖不能、陰萎遺精、體力増進、新陳代謝等
平町専賣所 五丁目角 山野邊藥局

生徒募集
和服一般
婦人小供洋服
小笠原流禮法
阿部裁縫塾
電話二四六番

養命酒
不甘味にして頗る芳香飲み易し眞に補血強壯劑の高級品也
代理店 山野邊藥局
電話五丁目角

江戶前 魚御料理
蒲燒 うなぎ井
榮
電話四二四番

釜屋商店
和洋銅鐵
金物問屋
電話一九三九番

濟命ピリン
高貴藥
定價廿錢 卅錢 五拾錢 壹圓
發賣元 平町水野藥局

二葉印刷所
電話七三四番

金印半天專門
草野染工場
電話三四八番

おかや洋服店
男子用 一〇・五〇ヨリ 二〇・六〇マデ
女子用 一〇・六〇ヨリ 二〇・七〇マデ
電話二〇三

耳鼻咽喉科
新築場所 合津醫院
電話五五九番

御注意
弊店各級の御愛顧によりまして日々隆昌に趣き厚く御禮を申し上げます。
ツルヤ商店

加藤丈夫營業所
電話三二二番

牛豚肉破格
深谷牛肉店
電話五二四番